

- 問1 北海道の釧路周辺における夏の気候について、統計資料では「8月の平均気温が約18度と低く、日照時間も短い」という特徴が示されることがあります。このような気候になる理由として、最も適切な説明はどれですか。（2025年 群馬県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 暖流である日本海流（黒潮）が湿った空気を運び、大量の降雨をもたらすため。 | 2. 冬の季節風が山脈を越えて吹き下ろし、フェーン現象が発生して乾燥するため。 | 3. オホーツク海高気圧から吹き出す冷たい風「やませ」が、日本海側に低温をもたらすため。 | 4. 寒流である千島海流（親潮）によって冷やされた空気が濃霧となり、日射を遮るため。 |
|---|---|--|--|
- 問2 北海道の道東、太平洋沿岸に位置する釧路市周辺の夏季の気候について、気温が上がりにくい理由を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2021年 宮城県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 北西から吹く乾いた季節風が、大雪山系を越える際にフェーン現象を引き起こし、雲を消し去ってしまうため。 | 2. 周囲を高い山々に囲まれた盆地特有の地形により、夜間に冷え込んだ空気が日中も地表付近に滞留し続けるため。 | 3. 南東から吹く湿った季節風が、寒流である親潮の影響を受けて冷やされ、霧が発生して日照を遮るため。 | 4. オホーツク海高気圧から吹き出す冷たい風が、山地にぶつかることによって上昇気流となり、内陸部に大量の降雨をもたらすため。 |
|---|--|--|--|
- 問3 北海道の泥炭地における土地改良の取り組みについて、不毛な湿地を農地に変えるために「排水施設の整備」と共に行われた、他の場所から新しい土を運び入れる作業の名称を選びなさい。（2025年 群馬県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 輪作 | 2. 減反 | 3. 干拓 | 4. 客土 |
|-------|-------|-------|-------|
- 問4 世界自然遺産である知床半島において、エコツーリズムを推進するために設置されている「高架木道」について、地面から高く浮かせて設置されている理由として最も適切な説明はどれですか。（2021年 熊本県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 森林火災が発生した際に、木道が防火帯として機能し、延焼を食い止めるため | 2. 冬の間に降り積もる深い雪に道が埋もれないようにし、一年を通じて観光を可能にするため | 3. 地熱による木材の腐敗を防止し、メンテナンスにかかる費用を最小限に抑えるため | 4. 歩行者が地面の植物を踏みつけるのを防ぎ、かつヒグマなどの野生動物との距離を保つため |
|--|--|--|--|
- 問5 北海道の産業別就業者数に関する特徴として、最も適切な記述はどれか。（2025年 青森県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------------------------------------|--|--|---|
| 1. 大規模な工業団地が多く、第2次産業の割合が全産業の中で最も高い。 | 2. 第1次産業から第3次産業まで、それぞれの就業者割合がほぼ均等になっている。 | 3. 大消費地である東京に近い、近郊農業による第1次産業の割合が全国で最も高い。 | 4. 広大な土地で農業が行われているため、第1次産業の割合が全国平均に比べて高い。 |
|-------------------------------------|--|--|---|
- 問6 2018年における日本の都道府県別小麦収穫量において、過半数を超える61.6パーセントを占め、全国1位となっている都道府県はどこですか。（2020年 大阪府公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 佐賀県 | 2. 福岡県 | 3. 新潟県 | 4. 北海道 |
|--------|--------|--------|--------|
- 問7 北海道の十勝平野などで行われている、同じ土地に異なる種類の作物を数年ごとに順序立てて栽培する「輪作」の目的として、最も適切な説明はどれですか。（2018年 長野県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------------------------------------|---|--|---|
| 1. 特定の病害虫の発生を抑え、土壌の肥沃さを維持して連作障害を防ぐため。 | 2. 1年間に同じ土地で2種類の作物を栽培し、土地の利用効率を最大限に高めるため。 | 3. ビニールハウスなどの施設を利用して成長を早め、出荷時期をずらし、収益を上げるため。 | 4. 機械化による作業効率を向上させるため、1つの農地で1種類の作物のみを栽培し続けるため |
|---------------------------------------|---|--|---|
- 問8 北海道の知床半島は世界自然遺産に登録されており、地域の自然環境を保護しながら、その価値を観光客に伝える「エコツーリズム」が推進されています。この取り組みの具体的な事例として、最も適切なものはどれですか。（2021年 熊本県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 野生動物との接触や植生へのダメージを抑えつつ散策を楽しめる、高架木道の整備 | 2. 札幌市で冬の観光振興を目的に行われる、大規模な雪像を展示するさっぽろ雪まつり | 3. ニセコなどのスキー場において、急増する外国人観光客に対応するための多言語表記の充実 | 4. 旭川市の動物園で見られるような、動物本来の動きを間近で観察できる行動展示の導入 |
|--|---|--|--|
- 問9 北海道最大の稲作地帯である石狩平野について、農業開発の歴史的な背景や工夫を説明した文として最も適切なものを、次のうちから選びなさい。（2024年 福島県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 火山灰地で水はけが良すぎるため、粘土質の土を混ぜて保水力を高める工事を全域で行った。 | 2. 水分を多く含む農業に不向きな泥炭地を改良するため、他から土を運び入れる客土が行われた。 | 3. 浅い海や湖を堤防で囲んで排水し、広大な干拓地を造成することで米の生産量を増やした。 | 4. 冷害を避けるため、石狩川の水を大規模な温水ため池で温めてから田に引く工夫がなされた。 |
|---|--|--|---|
- 問10 北海道の石狩平野における大正時代から現代にかけての地形の変化について、統計や地図上の情報を文章で説明した次の記述のうち、正しいものはどれですか。（2021年 神奈川県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 海岸付近の流路をあえて蛇行させることで砂浜の浸食を防ぎ、現在は広大な塩田として利用されている。 | 2. 山間部の流路を直線化したことで大規模な扇状地が形成され、現在は一面の畑地となっている。 | 3. 蛇行していた河川が直線的に改修され、それに伴い碁盤目状の道路が整備され、橋の数も増加した。 | 4. 河川を完全に埋め立てて住宅地としたため、現在は鉄道を中心とした放射状の道路網が広がっている。 |
|--|--|--|---|
- 問11 北海道の内陸部に位置する地域の気候の特徴について、ある地点の統計を確認したところ、1月の平均気温がマイナス20度近くまで下がり、年間のすべての月において降水量が100mm未満という非常に少ない数値を示していました。この地域の気候について正しく述べたものはどれですか。（2019年 富山県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|-------------------------------------|--|---------------------------------------|
| 1. 対馬海流の影響を強く受けるため、冬に雪が多く、年間降水量が2000mmを超える。 | 2. 冬の寒さが極めて厳しく、夏は冷涼で、年間を通して降水量が少ない。 | 3. 夏に「やませ」と呼ばれる冷たい北東風の影響を強く受け、夏でも霧が発生しやすい。 | 4. 季節風の影響で冬の降水量は多いが、夏は太平洋高気圧の影響で乾燥する。 |
|---|-------------------------------------|--|---------------------------------------|
- 問12 北海道の知床や鹿児島県の屋久島など、貴重な自然環境が残る地域では、観察用のデッキや木道を設置する取り組みが行われています。観光客に地域の自然を体験してもらう一方で、踏みつけなどによって自然が破壊されることを防ぎ、環境の保全と観光を両立させるこのような仕組みを何と呼びますか。（2022年 沖縄県公立入試 類似）
- | | | | |
|------------|------------|----------------|--------------|
| 1. マスツーリズム | 2. エコツーリズム | 3. バリアフリーツーリズム | 4. グリーンツーリズム |
|------------|------------|----------------|--------------|
- 問13 札幌市の中心部に見られる、道路が垂直と水平に規則正しく交差するように設計され、住宅地や商業地が正方形に近い区画で整理されている街路の形態を何と呼びますか。（2020年 島根県公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|------------|
| 1. 格子状の街路 | 2. 不規則な街路 | 3. 放射状の街路 | 4. 同心円状の街路 |
|-----------|-----------|-----------|------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 寒流である千島海流（親潮）によって冷やされた空気が濃霧となり、日射を遮るため。	北海道の太平洋沿岸には寒流の千島海流（親潮）が流れています。夏、この冷たい海面上に南からの暖かく湿った空気が流れ込むと、空気が冷やされて大規模な濃霧が発生します。この霧がカーテンのような役割をして太陽の光を遮るため、沿岸部では日照時間が極端に短くなり、気温が上がらない「夏でも涼しい」気候が形成されます。
問2	答え 3 南東から吹く湿った季節風が、寒流である親潮の影響を受けて冷やされ、霧が発生して日照を遮るため。	釧路市周辺を含む北海道東部の太平洋沿岸では、夏に南東から湿った季節風が吹きます。この風が、千島列島から南下してくる冷たい海流（寒流）である親潮の上を通る際に急激に冷やされ、濃い海霧が発生します。この霧が広範囲を覆って太陽の光を遮るため、夏でも気温が上がりにくいという気候特性が見られます。
問3	答え 4 客土	泥炭地は植物の遺骸が腐敗しきらずに堆積した土地で、水分が非常に多く農業に適しません。この土地に別の場所から良好な土を運び込んで層を作ることを「客土（かくど）」と呼びます。この作業によって土地の質を改善し、排水施設で水分を除くことで、ジャガイモやテンサイなどの畑作や、牧草地としての利用が可能になりました。
問4	答え 4 歩行者が地面の植物を踏みつけるのを防ぎ、かつヒグマなどの野生動物との距離を保つため	知床のような貴重な生態系が残る場所では、観光利用が自然破壊につながる「観光公害」を防ぐ必要があります。木道を地面から浮かせることで、貴重な植物の踏みつけを物理的に回避できるほか、電気柵を併設することでヒグマが木道内に侵入するのを防ぎ、野生動物との適切な距離を保ちながら安全に自然観察を行うことが可能になっています。これは、環境保護と観光資源の活用という、制度の目的を具現化した仕組みです。
問5	答え 4 広大な土地で農業が行われているため、第1次産業の割合が全国平均に比べて高い。	北海道は、十勝平野での畑作や根釧台地での酪農など、広大な土地を生かした農業が基幹産業の一つとなっており、第1次産業の就業者割合が約6%と全国平均よりも高い水準にある。一方で、就業者数の構成比としては、サービス業などの第3次産業が約76%と大半を占めており、第2次産業が中心というわけではない。
問6	答え 4 北海道	日本の小麦生産は、広大な土地を活かした大規模な農業が行われている地域に集中しています。統計上、全国の収穫量の6割以上を占める北海道が圧倒的な1位であり、それに次いで九州地方の福岡県や佐賀県が上位に位置しています。主食である米と比較して、小麦はより広大な面積を必要とする土地利用型農業としての側面が強いため、北海道が主要な産地となっています。
問7	答え 1 特定の病害虫の発生を抑え、土壌の肥沃さを維持して連作障害を防ぐため。	同じ土地で同じ作物を繰り返し栽培し続けると、特定の病害虫が発生しやすくなったり、土壌の養分が偏ったりして作物の育ちが悪くなる「連作障害」が発生します。これを防ぐために、豆類、小麦、てんさい、じゃがいもといった性質の異なる作物を順番に植え替えることで、土地の生産性を維持しています。
問8	答え 1 野生動物との接触や植生へのダメージを抑えつつ散策を楽しめる、高架木道の整備	エコツーリズムは、地域の自然環境や文化の保全と、それらを観光客が体験する活動を両立させる仕組みを指します。知床では、観光客が地面を直接歩くことで高山植物などの植生を傷つけるのを防ぎ、さらにヒグマなどの野生動物との遭遇による事故を避けるために、地面から浮かせて設置された「高架木道」が活用されています。旭川の行動展示は施設の工夫、雪まつりはイベントによる振興、外国語表記はインバウンド対応であり、いずれもエコツーリズムの定義とは異なります。
問9	答え 2 水分を多く含み農業に不向きな泥炭地を改良するため、他から土を運び入れる客土が行われた。	石狩平野の大部分は、寒冷な気候により植物の分解が進まずに積み重なった「泥炭地」でした。この土地は米作りに必要な温度を保ちにくく、また地盤も軟弱でしたが、明治時代以降、他の土地から質の良い土を運び入れる「客土」や、排水路の整備といった大規模な土地改良が続けられました。この努力に加え、寒さに強い品種改良が進んだことで、北海道は日本有数の米どころとなりました。火山灰地の改良（客土）は主に十勝平野などで見られる特徴です。
問10	答え 3 蛇行していた河川が直線的に改修され、それに伴い碁盤目状の道路が整備され、橋の数も増加した。	大正時代などの古い地図に見られる石狩平野は、河川が激しく蛇行し、土地の多くが湿地で橋も少ない状態でした。しかし、現代の状況を示す資料では、治水工事によって流路が直線的に整えられています。これに合わせて、開拓を効率的に進めるために土地が碁盤目状に区画整理され、道路網の整備とともに、分断されていた地域を繋ぐ数多くの橋が架けられるなど、土地利用が高度化しました。
問11	答え 2 冬の寒さが極めて厳しく、夏は冷涼で、年間を通して降水量が少ない。	北海道の内陸部は、海から遠く離れているために海による気温調節機能が働かず、放射冷却現象などの影響で冬の気温が極端に低くなります。また、周囲を山々に囲まれていることから、海からの湿った空気が入り込みにくく、日本海側などの沿岸部と比較しても年間降水量が少なくなるのが特徴です。
問12	答え 2 エコツーリズム	地域の自然環境や文化を損なうことなく、その魅力を観光客に伝える仕組みです。単に観光客を増やして利益を得ることを目的とするのではなく、木道の設置によって植生の破壊を防ぐなど、自然の保全を前提としながら活用を図る点が特徴です。
問13	答え 1 格子状の街路	明治時代に設置された開拓使による都市計画において、札幌市の中心部には京都の街並みや北米の都市を参考にした道路網が築かれました。このように直角に交わる道路で構成された街画は、土地の管理を容易にし、計画的な都市開発を進める上での大きな特徴となっています。